

しんしゅんたいだん
新春対談

かぶしきがいしゃ
イケア・ジャパン株式会社

しゃちょう
ペトラ・ファーレ社長



よこはましちょう
横浜市長

やまなかたけはる
山中竹春

じゅんかんがた ちきゅう しゃかい
循環型の地球にやさしい社会をヨコハマから

しんねん
新年のごあいさつ

あけましておめでとうございます。市民のみなさんが新しい年をむかえたことを、心から喜んでいきます。

2023年には、子どもの医療費を無料にしました。それにつづいて2024年は、出産費用・妊婦健診費用を横浜市だけで助成し、小学校の夏休みのあいだに昼食を提供するようにしました。また保育園へ紙おむつなどを持っていかなくてもいいようにサブスクサービスを始めました。いよいよ2026年4月から始める中学校での全員給食にむけての準備も進んでいます。がん検診の無料化（65歳になったとき）、2025年1月からの精密検査の無料化（70歳以上）をはじめ、総合的ながん対策にもとりくんでいます。これからも、子育て支援をもっと充実させて、あらゆる世代がくらしやすくなるために努力します。

2025年は、市民のみなさんに「出かけやすくなった」、「移動が便利になった」と思ってもらえるように、地域交通の充実にとりくみます。また、公園や学校のトイレを

洋式にしたり、学校体育館にエアコンをとりつけるなど、市民のみなさんからの要望が多かった身近な環境の整備を大きく加速します。

そして、大規模地震の被害から市民のみなさんをまもるため、基礎的な対策を進めます。だれでも安心して避難生活を送れるように備蓄品を充実させます。また物資輸送や救援活動の中心になる横浜市で最初の広域防災拠点を整備します。このように「市民の目線」に立ったとりくみで、災害対策を大きく強化します。

環境を大切にして、市民のみなさんといっしょにつくる「環共」がテーマの国際博覧会「GREEN× EXPO 2027」まであと2年あまり。進められている会場計画などについてタイムリーにお伝えし、市民のみなさんといっしょに、開催ムードを高めていきます。

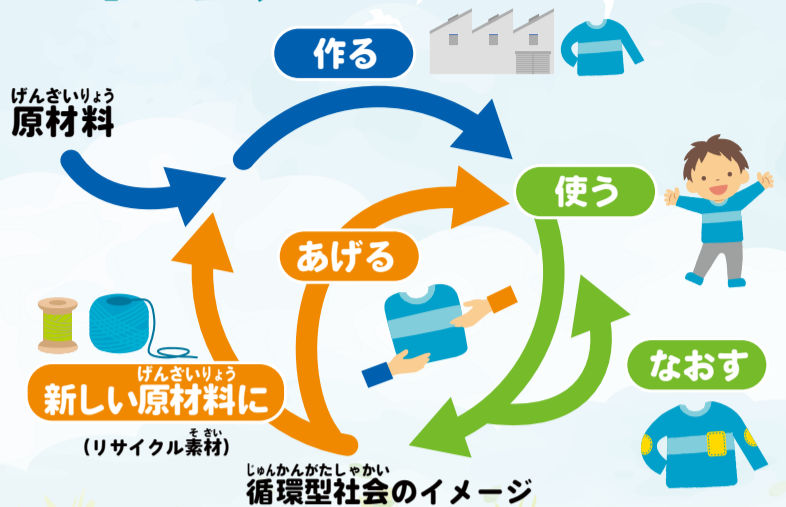
2025年も、市民のみなさんの「声」を大切に聞きながら、だれでも安心して暮らせるまちの実現にむかって、力をつくしていきます。

よこはましちょう やまなかたけはる
横浜市長 山中竹春

循環型の地球にやさしい社会を ヨコハマから

気候変動が私たちの生活に深刻な影響をおよぼしています。その対策のために、横浜市は、世界最大の家具量販店イケアの日本法人であるイケア・ジャパン株式会社と連携協定をむすんで、循環型社会や脱炭素化への取り組みをいっしょに進めています。

地球環境にも人にもやさしいこれからの暮らしについて、イケアのファーレ社長と山中市長が話し合いました。



ヨコハマから地球にやさしい行動を

ファーレ社長 (このあとは省略して 7A) 私の国のスウェーデンの人たちは、気候変動や自然が消えていくことによる影響について、積極的に学び、脱炭素にむけた行動をしています。イケア・ジャパンでは、日本でも、気候変動などの社会的課題の解決につながる消費者行動を進めて、それを後押しするように店を運営したり、製品の品質を向上させることが、企業として大切だと考えています。

まず、2018年からすべての大型店で、二酸化炭素などをほとんど出さないクリーンなエネルギーを100%使用するようにしています。2013年からは社内のすべての電球にLEDを使用し、現在、イケアで売っているのもLED電球だけです。

これからは、すべての輸送用大型トラックをガソリン車から電気自動車 (EV) に切り替えて、製品輸送によるCO₂排出ゼロをめざしています。お客様のところに商品を配達するサービスにもEVトラックを使っています。



排出ガスゼロのイケアEVトラック

山中市長 (このあとは省略して 7B) EVの使用は、CO₂削減にむけた大切な取り組みです。市役所としても、公用車やごみ収集車を、EVに切り替えています。それから

市内で進められているEV化を後押しするため、急速充電器をどんどん設置しています。車を使わない時間にゆっくり充電する普通充電のほかに、道路の渋滞や充電忘れてバッテリー残量が少なくなった場合に、急速充電器が使える環境にならないと、EVは普及しません。

横浜市には、現在、200のEV急速充電器が設置されていて、これは自治体のなかでいちばん多い数ですが、2030年度までに2倍の400にします。また、EVトラックなどの大型車が利用できる急速充電スポットを、日本で初めて、みなとみらい地区の道路に設置しました。



日本で初めて、EVトラックも利用できる道路の急速充電ステーション

7A 素晴らしい取り組みですね！行政がこういう社会基盤を整えてくれると、環境にやさしい取り組みが横浜でどんどん広がりますね。

ごみをださない循環型社会へ

7B イケアでは、できるだけリサイクル素材 (= ある産業で生産され使用済みとなったものを、廃棄しないで加工しなおして作る素材) などを使って新しい製品を作ることを重視しているそうですね。「できるだけ廃棄物を出さずに再活用する」という、いわゆる循環型社会の考えかたです。ね。



7A プラスチック、金属、木材、繊維などいろいろありますが、私の会社の製品の原材料には、リサイクル素材や再生可能素材を使うことを進めています。今の製品の原材料のうち、17%がリサイクル素材を使い、56%が植物などの再生可能素材を使っています。そして、2030年までに、すべての製品を、リサイクル素材や再生可能素材だけで作ることをめざしています。

また、イケアでは、お客様から買い取ったイケアの家具やお店の展示品などが買える「サーキュラーマーケット」を全部のお店で行っています。2023年までに買い取った家具は45,000点。これらはじゅうぶんに点検や修理をして販売しています。お客様に使い捨てではない製品をおすすめして、製品に第2の人生を与えたいと思っています。限りある資源を有効に使って、新しい廃棄物の量もへらすことで、循環型社会の未来に近づきたいと思います。



買い取られた家具が買えるサーキュラーマーケット

山 これまでのビジネス目線だと「新しいものをどんどん売る」という考えかたもあるのかもしれませんが、今は気候変動や環境に配慮したとりくみが企業価値に直結しますね。

7A 私たちは、リサイクルや買い取りなどをはじめ、一つの製品をいろいろな意味で「長く使ってもらえる」ことが「よいビジネス」だと思っています。もっとも重要なのは、家庭のことだけでなく、世界や地球全体のこととして考えていく視点です。人々の暮らしをゆたかにするのはもちろんですが、長く使ってもらえる製品を提供して地球にもやさしくなることが重要だと思います。そのような視点を持ち、未来にむけて、妥協しないでチャレンジしていきますし、それがイケアに求められている社会的責任だと考えています。



山 「循環型社会」というと、むずかしく聞こえるかもしれませんが、身近なところからとりくめますよね。

ひとつの例として、横浜市では、家で食べきれない未使用の食品を寄付する「フードドライブ」を行っています。CO₂排出の原因にもなっている「食品ロス」の削減や、「食の支援」につながる、環境にも人にもやさしいとりくみです。

区役所などの公共施設、市内で開くイベントなどに食品を持ちよってもらって、集めた食品はフードバンク団体や社会福祉協議会を通じて、ひとり親家庭やこども食堂、福祉施設などに寄贈しています。2023年度には10トン以上の食品を寄贈しました。市内の小売店でも行われるようになって、とりくみはどん

どん広がっています。これからも、「もったいない」を「ありがとう」につなげるフードドライブのとりくみを広げていきます。

また、家で揚げ物に使った油（廃食油）を再資源化し、飛行機の燃料に生まれ変わらせるユニークなとりくみにも参加しています。市民のみなさんに、専用ボトルに廃食油を入れて、スーパーなどの回収スポットに持ちよってもらっています。廃食油から作られた航空燃料は、ふつうの燃料にくらべてCO₂排出量をおよそ80%へらせると言われています。



飛行機の燃料に生まれ変わる廃食油のリサイクルボックス

一人ひとりの行動の積み重ねは、やがて、社会を変える大きな力になります。そして、市民のみなさんに、生活の中の身近な行動が循環型社会につながっていることを実感してほしい、と思っています。

7A イケアにはレストランがあるのですが、レストランのコーヒーから、大量のコーヒーかすが出ます。イケア港北だけのとりくみとして、それを農家に週1回およそ100kgわたして、肥料の原材料として使ってもらっています。



コーヒーかすを使った肥料

山 横浜市でも、下水を処理するときに発生した「リン」を取り出し、それを肥料として市内の農家で使ってもらうとりくみを始めています。下水が農家にとって価値ある資源

に変わるとは思ってもみませんでした。

そのほかにも、使用済みペットボトルを回収して加工し、新しいペットボトルを作るとりくみも進めています。この方法だと、一からペットボトルを作る方法にくらべて、製造するときに発生するCO₂をおよそ60%へらすことができるんです。さらにいらなくなった服を集めて加工して、新しい服に生まれ変わらせるとりくみなども進んでいます。技術が進化すれば、さらにいろいろなものがリサイクルできるようになると思います。



みなとみらい地区のペットボトルリサイクルボックス

環境にも人にもやさしいまちへ

7A 横浜市は先進的な気候変動対策のほか、子育て支援にも最優先にとりくんでいて、とても住みやすいまちだと思います。横浜市とイケアの間に、持続可能な社会にむけて、よいパートナーシップがあることを幸せだと思います。イケアはこれからも、人々が働き、生活する環境を支援したいと思っていますし、社会的・経済的にむずかしい立場にある人へのサポートも行っています。私の大好きな横浜がよりよいまちになるように、できる限り役立ちたいと思っています。

山 横浜市としても、環境先進企業のイケアとのパートナーシップは心強く、これからも、新しいとりくみをいっしょに生み出せたらと思います。これまで捨てられていたものを再利用したり、再資源化したりして、生活に役立つ製品として生まれ変わらせ、それを市民のみなさんの日々の生活の中で利用してもらう。こういうサイクルが浸透すれば、「環境にも人にもやさしいまち」にさらに近づくとと思います。

ペトラ・ファーレ

- イケア・ジャパン株式会社 代表取締役社長 (CEO) 兼 Chief Sustainability Officer (CSO)
- スウェーデン出身。2000年にイケア・スウェーデンに入社。イケア・ポーランドの副社長などを務めた後、ベッドルーム部門の世界展開にかかわるビジネス戦略や製品開発などの責任者として活躍。2021年8月から現在の役職。
- 趣味は子どもたちとのスキー、日本を探検すること。

イケアについて

1943年にスウェーデンで創業、現在はオランダに本社をおく世界最大の家具量販店。現在、世界31カ国で店舗を運営(日本法人のイケア・ジャパンは2002年に設立)。「循環型社会を促進させることで、イケアのビジネスを成長させながらも資源の再生を行う」という方針のもと、カーボンフットプリントの削減にとりくむなど、気候変動対策の分野のリーダーになっている。



GREEN×EXPO 2027
公式マスコットキャラクター
トウンクトウンク



GREEN
×
EXPO
2027
YOKOHAMA JAPAN

「幸せを創る明日の風景」にむけて

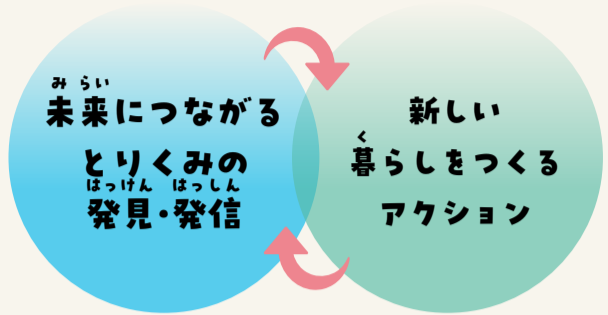
ヨコハマから新しい暮らしかたをはじめよう。

地球1個分で暮らそう

STYLE 100

CITY OF YOKOHAMA

「地球1個分で暮らそう STYLE100」は、地球にやさしい未来をつくる
横浜のさまざまな人や活動を紹介します。新しい暮らしをみんなでつくっていくプロジェクトです。
GREEN×EXPO 2027の開催までに、横浜から100の新しい「STYLE」を発信していきます。



地球にやさしい
ハマスタをつくろう。

地球1個分で暮らそう STYLE 100 #001

「エコハマスタジアムProject」として、横浜スタジアムで試合を楽しみながら、ファンみんなではじめるごみ分別。地球にやさしい、新しいエコ観戦スタイルを。



子どもの好奇心で
自然を調べよう。

地球1個分で暮らそう STYLE 100 #003

毎年1万人、これまでにのべ12万人の市内の小学5年生が参加する、「こども『いきいき』生き物調査」。種類や生息数の変化から、自然環境に興味を持つきっかけに。



ロッカー型自販機で、
食品ロスをなくそう。

地球1個分で暮らそう STYLE 100 #002

賞味期限内なのに捨てられてしまう専門店のパンが買える「食品ロス削減SDGsロッカー」。新しい挑戦として、規格外の野菜の販売を年度内に始めて、さらなる食品ロス削減へ。



横浜の都市農業を
世界にひろげよう！

地球1個分で暮らそう STYLE 100 #004

生産する場所と消費する場所が近く、地産地消がさかんな横浜の都市農業。生産・流通・販売のノウハウをアフリカやラテンアメリカ各国へ発信し、環境にやさしい横浜の農業を世界へ広げる。

横浜での魅力的な
STYLEをどんどん公開！
QRコード: かわいいことはこちら

きくところ 脱炭素・GREEN×EXPO推進局 GREEN×EXPO推進課 TEL:045-671-4627 FAX:045-212-1223



海、港、緑、歴史、地域、人々など、さまざまな魅力を持つ横浜。このまちの彩りを「よこはま彩発見」として届けていきます。今月は1月29日の春節にちなんで、横浜ユーラシア文化館(中区)からです。

よこはま彩発見 横浜中華街の風物

横浜には、お正月が二度やってきます。新暦(=いまのカレンダー)の正月と旧暦(=むかしのカレンダー)の正月「春節」です。1913年の横浜のガイドブックには、横浜の年中行事の一つとして「中華民国正月」が紹介されています。現在は「横浜春節祭」として、中華街だけではなく、横浜のあちこちで行われる早春の一大イベントとなっています。夏には旧暦6月24日に行われる関帝誕があります。関帝誕は横浜関帝廟の神様である関羽の誕生日をいわずお祭りです。横浜関帝廟にも長い歴史があり、幕末の開港(1859年)からすぐのころ、小さな祠がつくられたのが始まりです。それ以来、関東大震災、横浜大空襲、そして1986年1月1日の火事をのりこえて、現在は第4代関帝廟が、まちと人びとを守っています。

横浜ユーラシア文化館副館長 伊藤 泉美

横浜ユーラシア文化館は中華街から歩いて数分のところにあって、「横浜で世界とつながる」をコンセプトにする博物館です。ユーラシア地域のさまざまな民族の歴史や文化を紹介し、国際都市横浜ならではの、このまちに息づくさまざまな文化も紹介しています。常設展示室では横浜華僑(=横浜に移住した中国人)の結婚式の衣装や、中華街の東西南北の牌楼(門)に関係する漢王朝の時代(紀元前202年~西暦220年)の瓦当拓本も展示しています。横浜中華街まで来たときには、ぜひ横浜ユーラシア文化館もたずねてください。

※軒先の屋根瓦に墨をあてて、そこに刻まれた模様を紙に写しとったもの

ウェブ版では、抽選で読者プレゼントがあります
もっと
楽しい話は
こちら
QRコード



横浜華僑女性の結婚式の衣装 1940年ごろ(廣東會館俱樂部から横浜ユーラシア文化館に寄贈)▲

よこはま
横浜ユーラシア文化館

ゆうりょう
有料

【交通】みなとみらい線「日本大通り」駅から徒歩。JR・市営地下鉄「関内」駅でおり、歩いて10分。
【お休み】月よう(祝日の場合はそのつぎの平日)、12月28日~1月3日ほか



きくところ 横浜ユーラシア文化館 TEL:045-663-2424 FAX: 045-663-2453

Yokohama Happy Lantern Festival 2025

横浜春節祭

45日間、まちにあふれるおよそ50のランタンオブジェを見に行こう！

よこはましゅんせつさい 横浜春節祭2025 開催



ほうおうのランタン(イメージ)▶

【期間】1月15日(水よう)～2月28日(金よう)

【おもなランタン設置エリア】横浜中華街、都心臨海部にある公園・商店街、新横浜駅 ほか

春節は、中華圏で旧暦の正月をいわう文化行事です。その時期に合わせて、今年も横浜では、まち全体でにぎわいを生み出す「横浜春節祭」が開かれます。

期間中は、美しい色ではなやかに光り輝く「巨大ランタンオブジェ」が、横浜中華街をはじめ、都心臨海部のおもな駅や商業施設などおよそ50か所に設置され、獅子舞演舞が披露されます。

そのほか、「横浜スパークリングトワイライト」では春節をテーマにした花火もあがります。



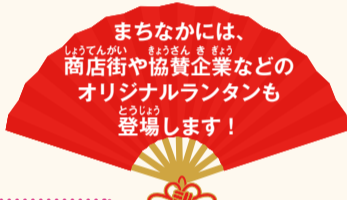
くわしいことは
こちら



さいゆうき さいおんじ
西遊記の雷音寺の
ランタン(イメージ)▲



▲獅子舞演舞のようす



まちなかには、
商店街や協賛企業などの
オリジナルランタンも
登場します！

獅子(=ライオン)は
おめでたいことのシンボル。
中華文化のおいしい行事には
欠かせません。

今年にはさらにランタン設置
場所がふえます。
●2024年開催のときのランタン設置場所



豪華景品が当たる スタンプラリーに参加しよう

期間中、デジタルスタンプラリーを行います。横浜中華街や元町エリアで使える買物券、ホテル宿泊券などの豪華景品が抽選で当たります。ぜひ参加して横浜のまちめぐりを楽しんでください。



市役所で獅子舞演舞を行います

【日時】1月21日(火よう)12:15から(予定) 【会場】市役所アトリウム
獅子舞演舞の後に、オープニングセレモニーがあります。



きくところ 横浜春節祭実行委員会 TEL:045-263-6917 FAX:045-661-0604